

音楽の諸活動を通じた有機的な指導計画

芸術 音楽 I 第1学年

県立野々市明倫高等学校・教諭

1 事例の概要

本校は、周辺に田園地帯が広がり広大なグラウンドを持つ環境に恵まれた進学校である。生徒は金沢市南部・野々市町・白山市等より通学しており、素直で比較のおとなしい生徒が多いが、そのためか音楽の授業において、自己表現することを苦手とする感がある。

本校の教育課程において芸術の授業は、2年前より音・美・書からの選択で一年時のみ2単位の履修となった。このような芸術の時数が削減されつつある状況の中で、学習指導要領にある「生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、豊かな情操を養う」ための指導を如何に行うかまた、普通科における音楽学習の最後の機会として、生徒に何を残せるのかを音楽科の課題としている。また、学校教育を終えた生徒らが、生涯にわたって音楽を愛好し、鑑賞のみではなく自らが音楽を奏で楽しむ能力を持つことは、音楽科における「生きる力」の一つであると考え、それを育成することも重要な課題と考えている。

これらの課題のもと、生徒らに音楽の授業で何を学びたいか等のアンケートを行ったところ、歌唱力の向上や様々な楽器を演奏する力、読譜力を身につけたいとの回答が多数あった。これらの事柄は、音楽の創造的な表現力を伸ばすためには不可欠であり、生徒自身もそれらを認識していることの表れであると考え、生徒に親しみやすい楽曲を通し、音楽表現の基礎であるソルフェージュ能力（読譜力）の向上と表現能力（歌唱・器楽）の伸長を有機的に結びつけ、より幅広い学力（音楽能力）を育てるための指導計画を考えた。

2 実践内容

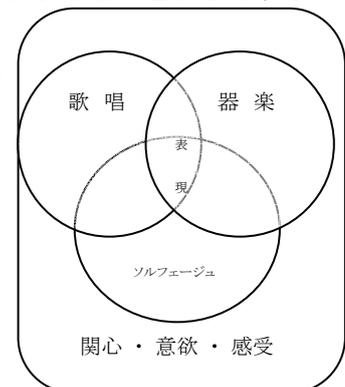
(1) 題材の目標

- ① 楽曲及びコールユーブンゲンの視唱・視奏を通してソルフェージュ能力を高めると共に、基礎的な歌唱法と器楽奏法を身につけさせる。
- ② 親しみやすい楽曲（ビリーブ）を通して、歌唱と器楽における相互の表現方法を味わい、曲の構成を理解するとともに、平易なハーモニーに対する感覚を養う。

(2) 指導上の工夫点

「ソルフェージュ」「歌唱」「器楽」をそれぞれ独立したものとして指導するのではなく、音楽的要素における有機的な繋がりを持たせた指導に留意し、それぞれの学習を通して、ソルフェージュ・歌唱・器楽・表現の相互の能力向上を図った。また、親しみやすい楽曲を使うことで、生徒の関心・意欲を持たせつつ、各種の音楽的要素を反復的に取り組み合わせることにより、より幅広い音楽能力の定着を図った。

- ① コールユーブンゲンと楽曲を使用してのソルフェージュ能力・歌唱力の伸長
- ② コールユーブンゲンと楽曲を使用してのリコーダーの基礎奏法の伸張
- ③ ソルフェージュと楽曲による相互的な基礎的音楽能力の伸長
- ④ 楽曲を通じてのハーモニー・音程に対する感覚の育成
- ⑤ 歌唱とリコーダー演奏による相互的な表現力の育成



3 指導の実際

指導例（第2時限目）

学習内容	生徒の学習活動	教師の指導	評価規準 (観点・評価方法)
<ul style="list-style-type: none"> ・ コールユーブンゲンを視唱・リコーダー視奏し、三度音程をつかむ。 ・ Believe の構成を知り、より美しいハーモニーで表現する。 ・ リコーダーで旋律を演奏する。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 全員で歌い二度、三度音程を感じて歌えるようにする。 ② 正しい運指でリコーダーが吹けるように練習する。 ③ 主旋律とハーモニーパートをグループで交互に歌い、音程を確かめ合唱練習する。 ④ 旋律を音名唱する。 ⑤ リコーダーで旋律を練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長短三度音程の違いに留意するように助言する。 ○ F→A 音、G→H 音の運指を取り出して範奏を示す。 ○ ハーモニーの部分が三度音程で成り立っていることに気づかせる。 ○ お互いの声部を聴き合いながら歌うよう指導する。 ○ H 音と B 音の運指の違いに注意させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ コールユーブンゲンで学習した音程が曲の中でどのように使われているか関心を持って表現している。(観点1・ワークシート・演奏観察) ○ 曲にふさわしい演奏のイメージを持って奏法を工夫している。(観点2・自己評価カード)

【この授業のポイント】

- ・ この1時間で生徒に身に付けさせたい音楽的な力を、教師が目標として明確に持つ。
- ・ 各時の目標をわかりやすい言葉で授業の始めに伝え、時間中たえず生徒に意識させる。
- ・ 生徒の願いである読譜力向上については、毎時間視唱・視奏することで身に付けさせる。
- ・ ソルフェージュの練習を単独に取り出して行うのではなく、導入として取り入れたコールユーブンゲンが、実際の楽曲につながっていることを生徒に気づかせる。

C-1 指導案

4 成果と課題

(1) 歌唱・器楽・コールユーブンゲンの有機的結びつき

歌唱の曲にコールユーブンゲンを取り入れたのは今回が初めてである。成果としては、コールユーブンゲンを導入したことにより生徒に音程等に対する理解や意識が芽生えてきたことと、繰り返し楽譜を読むことで、読譜力が身に付いたことが上げられる。また、コールユーブンゲンをリコーダーで吹かせることで、特にアルトリコーダーを初めて手にした生徒や吹くことに慣れていない生徒も、確実なフィンガリングを身に付けることができるようになった。さらに、歌唱とリコーダーを交互及び一斉に演奏し、感想を述べ合うことで、合唱・合奏においても表現を意識するようになった。

(2) ソルフェージュ及びハーモニー感のさらなる育成にむけて

課題として今回提示した学習指導計画は、その他の楽曲にも十分な効果を上げることも可能であるが、ソルフェージュやハーモニーに対する感覚の育成及び表現力を向上させるには、今後も継続し指導することで初めて身に付けさせることができると言える。また、題材の目標を鑑みつつ、効果的な教材を設定し指導と評価の方法をたえず工夫し続けることが、さらに上記の力を伸長することにつながると考える。